

令和 2 年 9 月 2 日現在

機関番号：32604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02085

研究課題名(和文) ジェンダーからみる近代日中女性関係史の総合的研究—月曜クラブと一土会を中心に

研究課題名(英文) The history of relations between Chinese and Japanese women in the modern period from a gender perspective--focusing on the Monday Club and the Ichidokai

研究代表者

石川 照子 (ISHIKAWA, TERUKO)

大妻女子大学・比較文化学部・教授

研究者番号：50316907

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的である「月曜クラブ」と「一土会」という、関連する二つの女性グループの活動を明らかにし、近代日中関係史をジェンダーの視点から分析することは、概ね達成できたと判断する。具体的には、両組織の実質的幹事であった東京朝日新聞初の女性記者竹中繁の未公開史料を十分調査・閲覧でき、それらの成果を、『女性記者・竹中繁のつないだ近代中国と日本—一九二六～二七年の中国旅行日記を中心に—』(研文出版、2018年2月)として上梓できた。

その他の活動も、研究会・打ち合わせ会議の開催、関連史料の所蔵状況に関する調査・収集、本の購入、情報の共有と発信、研究成果の学会発表等、多岐にわたって積極的に行われた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

メンバーの専門分野の学際性の高さにより、それを備えた分析ができた。また当時の日本の女性知識人たちの関心は主として欧米に向けられていたが、その中で中国の女性に目を向け、彼女たちを知ろうという活動が行われていた点に着目したことが、本研究の最大の独創性である。

近代日中女性交流の一側面を解明し、日本・中国それぞれのジェンダーの歴史的構築において、日中の女性同士の関係性が大きく作用していたことを明らかにした。月曜クラブ・一土会を通して日中の政治的関係の悪化と逆行し、理解と融和を目指して活動をしていた事を探ることは、近代東アジアにおけるジェンダーの歴史的構築の在り方を根源から問い直す事になった。

研究成果の概要(英文)：It was judged that the purpose of this study was to achieve the goal of clarifying the activities of two related women's groups, "Getsuyo club (Monday club)" and "Ichidokai," and analyzing the history of modern Sino-Japanese relations from a gender perspective. Concretely, the unpublished historical materials of Tokyo Asahi Shimbun's first female reporter Shige Takenaka, who was the actual organaizer of both organizations, can be thoroughly investigated and read, and the results can be seen in "Modern China and Japan Connected by Female Reporter Shige Takenaka: focusing on China's travel diary from 1926 to 1927" (Kenbun Publishing, February 2018).

Other activities were also actively conducted in a wide variety of ways, such as holding research meetings/staff meetings, investigating/collecting the holding status of related historical materials, purchasing books, sharing and disseminating information, and presenting research results at academic conference.

研究分野：人文学

キーワード：月曜クラブ 一土会 竹中繁 日中関係 朝日新聞 市川房枝 日中女性関係史 ジェンダー

## 1. 研究開始当初の背景

### <日中女性関係史の先行研究>

従来、日本近代文学、中国女性史、日本女性史の各研究においては、それぞれ一国史の枠内で論じられることが多く、日中間の女性同士が密に交わした交流を多角的、総合的に行う研究は少ない。これまで重視されてきたのは、参政権獲得運動や自由恋愛・結婚など国内の問題であり、女性の国際的な動きについてはまだ研究途上といえる。

日中関係史研究においても、政治・外交・経済等については研究の蓄積があるが、女性たちがどのように国境を越えて互いの存在を認め、諍いを回避し両国間の良好な関係に向けて女性の社会的役割を果たすべく親交を深めようとしていたのかということは、研究史上の欠落点である。

そこで、本研究では、近代における日本・中国の女性同士がいかにして関係性を構築しようとしていたかの基礎的研究として「日中女性関係史」という枠組みを提起し、1920年代末から30年代において、その活動の中心となったグループ「月曜クラブ」と「一土会」に焦点を当てる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、1920年代末から1930年代において、日本の女性知識人たちの議論と交流の場であった「月曜クラブ」および、そこから発展して作られた、隣国中国を知ることを目指した「一土会」という、関連する二つの女性グループの活動を明らかにし、近代日中関係史をジェンダーの観点から分析することである。これまでに、月曜クラブと一土会の実質的幹事であった東京朝日新聞社初の女性記者竹中繁の未公開史料(中国旅行日記・原稿・書簡・写真等)について、本研究の申請者石川照子、山崎真紀子(研究分担者)、須藤瑞代、藤井敦子、姚毅(ともに研究協力者)の5名は詳細な分析を行い、公開出版可能な形態に整えてきた。「月曜クラブ」「一土会」の記録もその作業の中で見つかった新史料であり、日中関係に新たな知を提供することができる。

## 3. 研究の方法

- 【1】竹中繁の残した月曜クラブと一土会に関するノートを詳細に検討し、それぞれの会の方向性および意義について解明する。
- 【2】月曜クラブ・一土会参加者の中国観について、当時の新聞雑誌などに掲載された記事を調査して検討する。
- 【3】中国側の史料を調査し、日本女性の中国訪問に関する記録や記事を調査検討する。
- 【4】定期的な研究会を開催して調査した結果の意見交換をし、【1】～【3】の進捗状況について確認、情報を共有した上で論文集作成作業を行う。
- 【5】共同研究のまとめとして、ワークショップの開催、論文集を刊行する。

## 4. 研究成果

### \*2017年度

国際シンポジウムへの参加と報告・・・7月11～14日に台湾・中央研究院近代史研究所主催の国際シンポジウム「世界史の中の中華女性」に、研究代表の石川照子が研究協力者の須藤瑞代、姚毅と共に参加し報告を行った。また、台湾、中国等の研究者たちとの学術交流も行った。

今期の科研費助成事業と同じメンバーによる科研費助成事業（基盤研究C「近代日中女性関係史におけるジェンダー構築の総合的研究ー竹中繁を中心として」研究代表者：山崎眞紀子）2014年4月～2017年3月）の成果を、『女性記者・竹中繁のつないだ近代中国と日本ー一九二六～二七年の中国旅行日記を中心にー』（研文出版、2018年2月）として上梓した。

### \*2018年度

国際シンポジウムへの参加と報告・・・11月8～11日に、上海社会科学院歴史研究所・神奈川大学非文字資料研究センター主催の円卓会議「中国・上海都市研究の新動向」（於上海社会科学院歴史研究所）に、研究代表者の石川照子が参加し報告を行った（「上海のキリスト教ー戦後・建国後・そして現在」）。また、中国の研究者たちとの学術交流も行った。

### \*2019年度

2019年12月8日、ジェンダー史学会第16回年次大会（於専修大学）の自由論題部会において、パネル報告「日中開戦前の女性たちによる平和運動の模索ー月曜クラブと一士会を中心に」（報告者：石川照子、山崎眞紀子、須藤瑞代、姚毅）を行った。ジェンダー史学会大会での報告は、研究期間全体の成果の総まとめと位置づけられる。報告の目的は、「日中戦争前の時期、すなわち1920年代末から1930年代において、日本の女性知識人たちの議論と交流の場であった「月曜クラブ」と「一士会」という、関連する二つの女性グループの活動を明らかにし、そこで模索されていた日中間の平和を希求する活動について考察すること」であった。報告に対しては多くの質問・コメントが寄せられ、幸い好評を得て、今後の論文集刊行の為の重要な土台の構築ができた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 石川照子	4. 巻 236号
2. 論文標題 上海のキリスト教—戦後・建国後・現在	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 70 - 78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川照子	4. 巻 第29号
2. 論文標題 『上海婦女』における日本/日本女性の表象	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国女性史研究	6. 最初と最後の頁 17 - 31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎真紀子	4. 巻 236号
2. 論文標題 村上春樹が描く上海 『トニー滝谷』における父子の傷	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 179 - 183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須藤瑞代	4. 巻 第41号
2. 論文標題 社会 中国女性と第一次世界大戦（シンポジウム「第一次世界大戦と中華 民国」の記録）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 近代中国研究彙報	6. 最初と最後の頁 124 - 128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 姚毅	4. 巻 なし
2. 論文標題 中国と台湾	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代アジアのリプロダクションに関する国際比較研究：ジェンダーの視点から 調査報告書	6. 最初と最後の頁 46 - 65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 石川照子
2. 発表標題 上海的基督教—戦後・建国後・以及現在
3. 学会等名 円卓会議「中国・上海都市研究の新動向」（於上海社会科学院歴史研究所）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山崎真紀子
2. 発表標題 田村俊子『女声』の背景 1920年代と1940年代の日中女性関係の温度差を軸にして
3. 学会等名 昭和文学会2018年春季大会 国際シンポジウム「東アジアの日本語文学研究の可能性と課題 移動とネットワーク」（於東京女子大学）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川照子
2. 発表標題 従 良友 上海婦女 看日本/日本女性
3. 学会等名 台湾・中央研究院近代史研究所主催〈世界史中的中華婦女〉国際学術研討会（於台北）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山崎真紀子
2. 発表標題 大橋毅彦『昭和文学の上海体験』（勉誠出版、2017年）書評
3. 学会等名 日本上海史研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山崎真紀子、山出裕子、宜野座菜央見
2. 発表標題 異言語圏での葛藤：田村俊子の軌跡から見る言語の身体性
3. 学会等名 日本近代文学学会・昭和文学学会・日本社会文学学会合同国際研究集会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川照子、山崎真紀子、須藤瑞代、姚毅
2. 発表標題 （パネル報告）日中開戦前の女性たちによる平和運動の模索――月曜クラブと一土会を中心に
3. 学会等名 ジェンダー史学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 山崎真紀子・石川照子・須藤瑞代・藤井敦子・姚毅	4. 発行年 2018年
2. 出版社 研文出版	5. 総ページ数 488
3. 書名 女性記者・竹中繁のつないだ近代中国と日本――一九二六～二七年の中国旅行日記を中心に――	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	山崎 真紀子  (Yamasaki Makiko)  (00364208)	日本大学・スポーツ科学部・教授    (32665)	
研究 分担者	須藤 瑞代  (Sudo Mizuyo)  (70844687)	京都産業大学・国際関係学部・准教授    (34304)	
研究 協力者	姚 毅  (Yao Yi)		
研究 協力者	藤井 敦子  (Fujii Atsuko)		